



小倉



文化財



建築



た。大経済学部卒。竹中工務店、ボ
デザインが勝ちす
ぎるリノベーション
や物件ではなく、デ
ザインを通して目指
すのは「どこにもな
い普通」だ。ホテル
をデジタルブックにまとめて
広く配布する予定だ。
こうした情報共有やコミュ
ニケーションに力を注ぐの
は別の理由もある。素材や工
法の情報がしつかり共有・伝
達されていけば分別解体は容
易になり、リサイクルやリユ
ースは加速する。逆に、循環
の流れが目詰まりしているの
は、「作ることを壊すことに
情報の格差があるから」と成
富さんはみる。
人や社会、環境に配慮した
商品を選ぶ「エシカル志向」
への関心が高まるなか、商空
間のデザインでも今後同様の
選択基準が求められるというの
は間違いない。再利用だけで
なく、作り方や捨て方のデザ
インにも踏み込んだ「グッド
・エシカル・オフィス」。新
奇性や斬新さを重視してきた
商空間のデザインにルールの
変更を促す取り組みからは、
「再び社会に戻すことを前提
に使った素材を選び、回収する
仕組みまでも一貫してデザイ
ンしていく」という強いメッ
セージが込められる。
(AXIS 上條昌宏)

什器・家具 エシカルの風

船場の改装オフィス、8割再利用

商空間のデザインや施工を手がける船場は5月、東京・浜松町の本社オフィスを全面改装した。新オフィスの名称は「グッド・エシカル・オフィス」。商業空間の設計においても廃棄物の削減や循環型への移行といった新たな倫理(エシカル)が求められるなか、自らのオフィスを通じて再生資源の活用方法を訴える。

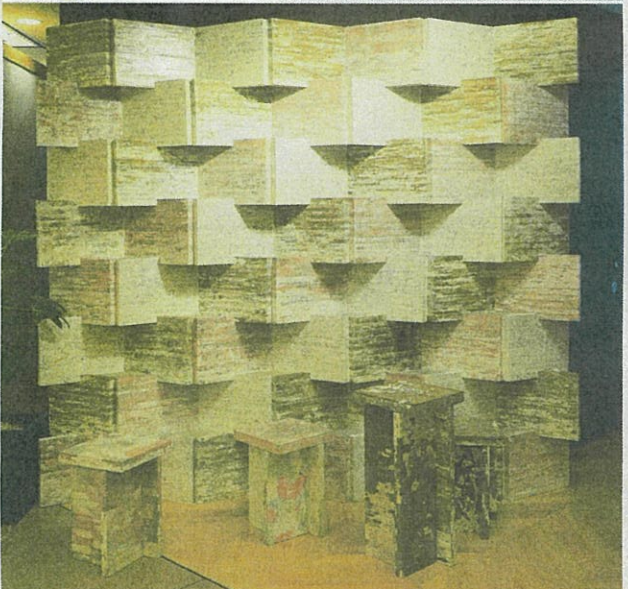
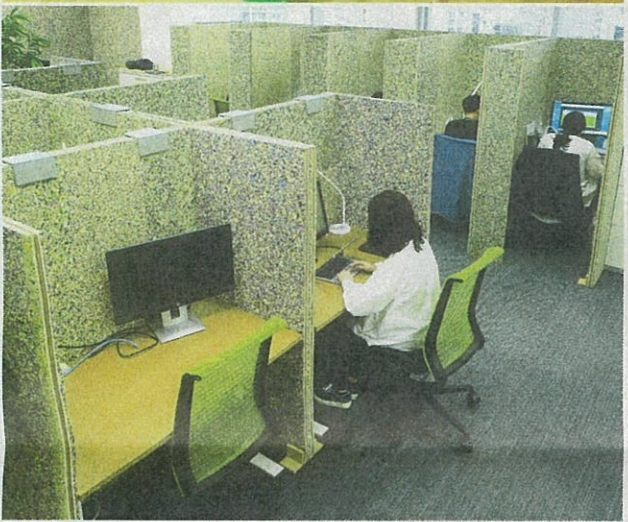
空間の再生と継承を形に

来訪者や社員が行き交う「コラボ」と名付けられた空間。あたりには、工事現場で目にするコーン標識やフォークリフトでの作業時に枕木代わりに使うリングなどをアップサイクルした家具が並び、スチールラックの棚板はガラスの天板と組み合わせてハイテーブルに。デザイナーが保管していた膨大な素材サンプルはベルトで束ねてベンチの支持脚や座面に姿を変えた。「丘」と呼ばれるスペースでは、段状の広場のような空間で社員が資料作りやメールの対応にいそむ。ここは、使わなくなったスチール什器(じゅうき)などを一時保管するストック場。積み上げた什器の上の空間を執務スペースにあて、スペースの効率化とカシユアルな働き方の両立

空間の再生と継承を形に

を図った。リモート用の会議室や集中ブースのパーティションには吸音効果に着目し、廃棄されたソファの芯材を使う。こうした工夫により、什器や家具の約8割を再利用。再利用ができなかった残り2割もリユース業者を介して市場に戻すなどして資源循環に努めた。今回のオフィスリニューアルは昨年のコロナ禍で浮上した。テレワークをきっかけに、船場でも出勤者が大幅に減った。契約更新を迎えていたスペースをどうするか。2フロアにまたがっていた事業スペースを1フロアに集約する話を持ち上がるなか、「空間の再生と継承」という新たな経営ビジョンを具現化した「グッド・エシカル・オフィス」という構想が浮上した。(神戸エシカルデザイン本部副本部長) エシカルというテーマを新たなオフィスデザインにどう昇華させるか。プロジェクトチームの間には当初、戸惑いがあったという。そこで、素材や廃棄物に関する情報を集め、知識を深めた。知見をもつ外部にも積極的に声をかけ協力を打診。廃棄物の再利用コンサルティングなどを手がけるモノファクトリー(東京・品川)とは一般廃品のリユースで協力し、植栽のプランターに洗濯機のドラムやショッピンクカートを用いるユニークな廃材利用に繋がった。不要となったものに新たな用途を与え、社会に戻す取り組みはモノのデザインに限らない。気鋭のデザインスタジオowe+(東京・中庄)とは、社内で出た木材やレンガ、タイル、金属などの廃材を細かく砕き、粒度を変えながら固めることで複雑な表情をもったオリジナル素材を開発。廃棄物をマテリアルにする可能性に取り組んだ。これらの素材はウェブナーなどを行う配信撮影スタジオの壁面材や椅子などに展開する。このプロジェクトでも積極的に活用していければ」と成富はエシカルデザイン本部シニアデザイナーは、今後の抱負を述べる。

同社はこれまで、専門店や大規模商業施設を中心に多数の商空間をデザインしてきた。しかし、その多くは5、6年というサイクルで刷新され、大量の廃棄物を生む温床になってきた。廃棄物を見る目は社会全体で厳しさを増している。丹精込めて作った空間がまだ使えるにもかかわらず廃棄や解体の憂き目にあうことに違和感を抱く社員も少なくなかった。「これからの商空間は新しいワクワクを訴えるだけでなく、社会にとってのグッドや安心感にも配慮する必要がある」。加藤麻希エシカルデザイン本部副本部長は自戒を込めてこう語る。業界全体で廃棄物削減や循環型への移行を促進するため、エシカルマテリアルに特化したライブラリーも新設した。ここでは100社以上の材料メーカーに声をかけて集めた素材を再生材使用型、循環型、回収・処分対応型など6つの基準に分類し、さらに原料ごとに色分けして紹介する。ゆくゆくはこれらの情報



内食率の高まりで
伸長する
小分け鍋需要に注目!

豆腐カテゴリーNo.1の「絹美人」シリーズから新商品 おかめ豆腐「鍋美人」登場!

国内豆腐シェアトップのタカノフーズが、この秋新商品「鍋美人」を発売。
絹豆腐のなめらかなおいしさそのままに、鍋に合わせた風味と自社最高の硬度により、冬の鍋需要を取り込んでいく。